ともに語り合う

「人権・開発・平和」

これまでとこれから、
NGOの関わり

●日時　2019年1月25日(金)18:30～20:45(18:00開場)

●場所　名古屋国際センター3F　第1研修室
名古屋駅徒歩7分
地下鉄桜通線 国際センター駅直結

●スピーカー　宇井志緒利さん
佐伯奈津子さん／羽田野真帆さん

●参加費　500円(学生)　1000円(一般)

●お問い合わせ　名古屋NGOセンター
〒460-0004 名古屋市中区新栄町2-3 YWCAビル7F
TEL&FAX:052-228-8109
E-mail:info@nangoc.org
http://nangoc.org

事前申込みは名古屋NGOセンターのウェブサイト http://nangoc.org 申込みフォームから
当日参加OK

主催　日本平和学会中部・北陸地区研究会
特定非営利活動法人 名古屋NGOセンター
協力　特定非営利活動法人 アーユス仏教国際協力ネットワーク
NGO非戦ネット

ともに語り合う

「人権・開発・平和」

これまでとこれから、

NGOの関わり

　自国第一主義による国際協調の後退、**移民排斥**やポピュリズムの広がりなど、世界の**平和**を支える道徳的規範や統治の枠組みが機能不全に陥り、平和秩序が揺らいでいます。日本国内では他者との違いに対する**不寛容**な空気が広がり、**ヘイトスピーチ**が野放しにされ、個人の尊厳を損なう言説が多発しています。社会から自由闊達な言論が失われ、委縮と忖度が意思決定を支配する傾向が強まり、市民活動にも少なからず影響を及ぼしています。

　平和秩序の不安定化と軍事的緊張の高まり、それに伴う**市民的自由**への干渉や言論空間の縮小等、市民社会スペースの狭隘化と脅威が進行する現今の状況において、**国際協力NGO**はじめ**市民社会**の果たすべき役割が問われています。

　このイベントでは会場のみなさんに参加していただき、長年NGO活動に取り組んできた人たちの経験を共有し、**「人権・開発・平和」**の取り組みの現状とこれからの課題について、3人のパネリストと共に考え、議論したいと思います。

パネリストのプロフィール

宇井志緒利（ういしおり）　立教大学大学院キリスト教学研究科教員。
1960年愛知県春日井市出身。学生ボランティアをきっかけに、1984年からアジア保健研修所（AHI）の職員として、カンボジアやフィリピンなどアジア諸国における地域開発ワーカー育成支援に従事。1992年～93年世界教会協議会（WCC）カンボジアプログラム調整役として、カンボジア常駐で農村開発・国内難民支援などに関わる。2007年名古屋大学医学系研究科国際保健専攻博士課程修了。2015年より現職。健康、開発、平和、アジアの市民社会をテーマにした授業を担当。著書に　『Ethnography　Unbound』（共著、カリフォルニア大学出版会、1991）、『非戦・対話・NGO』（共著、新評論 2017）他。

佐伯奈津子（さえきなつこ）　名古屋学院大学国際文化学部教員。
1973年東京都出身。東南アジアにおいて日本が関わった開発と紛争、人権問題に取り組む。とくに長年の内戦と津波を経験したインドネシア・アチェ州では、20年間にわたり女性たちの証言の聞き取りと自立支援をおこなう。2015年4月、名古屋に赴任してからは、東海地域に暮らすインドネシア人の相談を受け、行政手続きや労災、DVなどの問題解決を支援している。

羽田野真帆（はだのまほ）　NPO法人 名古屋難民支援室コーディネーター。
1989年岐阜県可児市出身。小学生のころ渡米し、現地校でパレスチナ出身の友人などができた体験から、将来難民支援を仕事にしたいと考えるようになる。大学生になってから、日本にも難民が来ていることを知り、学祭で難民に関する講演会や展示会の開催、難民対象の日本語教室での活動、難民認定手続きのための難民と弁護士の打合せの通訳、立証資料の翻訳などに関わる。東海地域で難民支援に携わりたいと、名古屋難民支援室に2012年の開設時より参加。